

人生を拓く

35

野矢武夫さん 35

武夫さん(96)は、福島の開拓団として東12号北2番地の丘陵地に入植した父文吉さん(昭和14年、72歳で逝去)、母サキさん(同17年、63歳で逝去)の6人姉弟の末っ子として第三尋常高等小学校、東川尋常小学校高等科を卒業。両親を手伝って農業一筋に歩んできました。



病も患うことなく、40歳ごろまで冬山造材の仕事にも励みました。長男敏章さん(68)は、高校を卒業後、この地で酪農を始め、15年後広い草地进行して新天地、十勝・更別村へ。武夫さん夫婦は、敏章さんの移住を機に、早い離農を決意しました。武夫さん61歳、クニ子さん56歳の時でした。

1941(昭和16)年に出征して終戦の1945(同20)年、24歳で帰国。戦後の混乱期が収まった28歳の時に5歳年下の秋田県出身の妻クニ子さん(平成24年、86歳で逝去)と見合い結婚して独立。一男一女を育てました。

当時の第三地区は大きな集落でした。

「30戸も40戸もあった。発電所の職員家族もいて、東10号までずらっと家が並んでたよ。昔は13号と14号の間に分校もあってな」と昔日のにぎわいに思いを馳せました。かつて東川百景に選定されたシンボル・エゾヤマザクラの大木は、丘の上で今もひっそりと見事な花を咲かせています。

亜麻、小麦、大豆を中心に2・5・5ヘクタールを経営し、33歳の時には猟銃で大きなヒグマを仕留めた武勇伝も。分家時に譲り受けた雌の親馬から雌馬2頭を授かり、その子馬を元手に規模拡大。頑強な体で大

その後は民謡が大好きだったクニ子さんと二人で民謡の地を訪ねる旅を楽しむことが出来るように。江差追分が好きで、部屋に唄(うた)の調子を書いた大幕を張って日々練習に励むほど熱を入れました。ところがクニ子さんは64歳の時に突然パーキンソン病を発病。武夫さんは徐々に体が動かなくなっていくクニ子さんのために、一緒にリハビリに通い食事も工夫して病状の改善を願う日々が続きました。しかし病気の進行は早く、6〜7年後には寝たきりに。それでも15年間自宅介護を続けました。

今は長女真澄さん(65)夫婦と同居。この地で歩んだ半生を振り返るゆとりも生まれ、行き届いた庭木の手入れを楽しんでいます。

俳句

今日で通学バス卒業す最後に礼
春よ来いかくれんぼならもう終わり
卒業写真みんな前を向いていた
人の卒業済ならず留年や
時薬こころ解いて春陽さす
校則にさらばといひて卒業す
学ランをスーツに替えし弥生かな
おいでおいで木の芽手招き春招き
春陽うけ開花待たるる鉢の列
出稼ぎの父ちゃん帰って春動く
跳箱を六段飛び卒業す
村人が指折り数ふ一年生
卒業式明日からしばし中ぶらりん
抽斗に残すアルバム卒業子
風の音は君の寝息よ山笑う

佐々木	りえ
山内	みゆ
小林	ろぼ
杉山	ひろのり
保科	なほ
徳光	吐苦
杉山	りつ
こばやし	星来
横田	則子
若田	久
高瀬	潤
石澤	清宏
三島	智
若田	郁
本田	咲

